

令和7年度 授業改善プラン（国語科の課題分析・授業改善策・補充・発展的指導計画 小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	○書くこと、読むこと、語彙力など、就学前までの学習経験の差が大きく、授業の組み立て方に工夫が必要である。	○文章から読み取ったことを書く活動を取り入れ、正しく読み取れているのか、確認する。 ○グループ読みや列読み、交代読みなど、様々な音読の練習方法を取り入れ、一人一人がしっかりと読めるようにする。	○朝の学習時間や、国語の学習の初めに音読の時間を取り、正しくはっきりと読む学習を継続的に行う。 ○重要な言葉や知りたい言葉に着目し、教室に掲示する。
2年	○説明文における動作化を学習の中心に取り入れて授業を行った際、文中的大切な言葉の理解や、文を読み取り、内容を把握するのに時間を要した。どちらに重きをおいて指導するかが課題である。	○学習活動をパターン化して、学習のゴールや見通しがもてるようにする。教師が焦点を絞ることで、動作化の学習時間を短くし、言葉や内容の理解を取り入れた授業構成を考える。	○物語文においても、動作化を取り入れて、その成果や課題を学級間で共有し、授業の改善を図る。
3年	○習った漢字を文章の中で活用することが難しい。 ○文意のつながりを考えた接続語を使いながら文章を書くことが十分できない。また、5W1H を使いつつ、簡潔な文章を書くことが難しい。 ○本文から質問された内容を読み取って記述する力が、定着していない。	○小テストや「漢字の広場」など復習する時間、反復する時間を確保する。習った漢字を使うよう、日常的に助言し、文章の中に取り入れた学習を行う。 ○基本的な文型や構成、効果的な表現、推敲を指導するとともに、生活に密着した題材や書く必要感のある題材を設定し、文を書く機会を増やす。 ○題意を把握し、本文から該当の部分を確実に抜き取る作業を繰り返し行う。	○毎日一定量の漢字に取り組ませ、家庭での漢字練習の習慣化を徹底する。 ○朝のモジュール学習に文章を書く時間を設け、繰り返し書く練習をすることで、学習内容の定着を図る。 ○全教科において、言葉の意味を大切にし、様々な場面で言葉を通して考えたり、表現したりする力を身に付けさせる。
4年	○文字として漢字を覚えても日常の文章の中に活かすことが難しい。 ○文の中に句読点を正しく打つことができない児童がいる。 ○本文を落ち着いて正しく読み取ることが難しい。	○小テストの確認を適宜行い、決められた文章の中の漢字を正しく書けるようにする。 ○学習した漢字を使って文章を書く時間を設け、グループや学級全体で適切な文を共有しながら正しい文章が書けるようにする。 ○文章の構成に着目させて鍵となる言葉を中心読み取るように指導する。 ○指示語が何を指しているのかを確実に捉えさせ、正しく読み取る指導を行う。	○文章を書く学習や発表する上での話型の指導を継続して行い、どのように文章を書いたり、発表したりしたらよいのかを理解できるようにしていく。 ○「ことばのたから箱」を日々活用し、語彙を広げていく。 ○わからない単語は辞書で確認する機会を設ける。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文における要旨のまとめ方について、十分に理解できていない児童がいる。 ○教材文に出てくる語句の意味を正しく捉えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文の中で繰り返し使われている叙述に注目させ、友達と意見交流、全体で交流することで、よりよい要旨のまとめ方になるよう考えを広げたり深めたりする。 ○児童にとって馴染みのない事物の名前や、抽象的な概念を表す言葉など、児童が理解したり想像したりすることが難しい言葉について事前に取り上げる。馴染みのない言葉等は、教室内掲示にしたり、ゲーム感覚で意味を理解できるアプリケーションを利用したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要約や要旨をまとめるとには、目的に応じて字数設定を行う。 ○文章校正や重要な叙述を捉える活動を継続し、自分や友達がまとめた要旨を推敲する能力の向上を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○説明的な文章を読み取り、文章から筆者の主張を正しく読み取ることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一単元の指導内容を、どの教材においても以下のように統一し、説明文における指導の積み重ねを重視した指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の型を読み取る。→「中」を読み深める。→筆者の主張を捉える。→自分の考えを書き、学級全体で共有する。→自分の考えを深める。 ○「めあて」と「課題」を分けて提示し、本時で児童に何を作業させるのか明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「中」の読み取りについて、自分の体験や経験から具体例を挙げさせ、文章の内容を解釈できているかを確かめる学習形態をとる。
教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画